編 集 後 記

2005（H17）年 7 月に、大学基準協会の第三者評価を受けるべく、自己点検・評価・FD 委員会の下に、「認証評価申請委員会」（委員長；学長）が組織され、認証評価申請に関する全てを統括することとされた。続いて、実際の作業を行う部署として「自己点検・評価報告書作成部会」（以下、報告書作成部会と記す）と「大学基礎データ調書作成部会」（部会長；事務局長）が組織され、前者は報告書の編集を、後者はデータ調書の作成を担当することとした。

このような組織の下において「報告書作成マニュアル」に従った報告書作成に着手し、学長、学部長、宗教部長、教務部長、学生部長、図書館長、事務部長などにそれぞれの執筆を依頼した。この際、執筆の量の大小こそはあれ、原則として本学の教職員全員が、さらには必要に応じて学院本部の事務職員も執筆に関わることとした。このように多くの教職員が多大な時間と労力を費やして報告書を作成したということは、他にあまり例を見ないのではないかと自負しており、執筆に関わった教職員の方々に心からの感謝の意を表したい。

このように多くの教職員によって執筆された原稿は「報告書作成部会」に集約された。「報告書作成部会」では、全委員が週に１回集まり、毎回２～３時間の編集作業を行った。この作業の前には、全ての委員に一定量の原稿が割り振られ、前もって査読し、問題点や誤りなどを用意して出席した。授業や校務の合間を縫って作業をしなければならず、担当された委員各位には深く感謝の意を表したい。

このようにして編集された原稿は「大学外部評価等準備室」（室長；学長、室長代行；大野博之人間関係学部教授）において、内容の確認や文章の修正などがなされた。この作業も多くの時間を費やして行われたものであり、担当各位には大いなる感謝の意を表したい。

2006（H18）年５月には、データ等の調整が行われ、「自己点検・評価報告書」が完成し「認証評価申請委員会」において承認され、翌年３月に大学基準協会に提出された。

これに基づいて、2007 年 10 月 23 日(火)には、大学基準協会による実地視察がなされた。その際の評価も概ね良好なものであり、評価委員の方から「もっと良い点を書かれたらよかったのに…」という言葉をいただいた。これは執筆した本学教職員が「自己点検・評価は、本学の短所・欠点を塗り隠すのではなく、それらを洗い出し、改良・改善に役立てることを念頭に置いて執筆したことによるものであると考える。

そのような理念と評価結果を踏まえ、本学の長所をさらに伸ばし、大学基準協会からいただいた助言等については、今後改良・改善に取り組んでいきたいと考える。

2008(H20)年 3 月

自己点検・評価報告書作成部会長 野中靖臣